

比較文化会報

Dec. 1991 No.12

本部事務局 青森県弘前市稔町13-1
弘前学院大学英米文学佐藤研究室
電話 (0172) 34-5211 内線 19

発行者 芳賀 馨
編集者 引地 岳雄

『津軽の詩』

本部事務局次長 佐藤 憲和

『津軽の詩』は詩集の名である。方言で詩を書いた津軽の詩人たちの何人かの詩が収められている本である。出版社は津軽書房で弘前にある。地方出版では優れた業績をあげてきている異色の出版社だが、県外ではあまり知られていないかもしれない。

ここに選ばれてある詩は、数ある方言詩のなかでも傑作ばかりなのだろう。ただ私はこれらの詩を声にして読んでみるだけである。例えば、「吹雪」（高木恭造 詩集『まるめろ』より）と題した次の詩である。

小供達エ
早くと寝てまれ
はらッ！
あれッ白い狼ッ吼えて
駆て歩いてらんだ
まきの偶がら
死んだ爺と嬶眺める下
小供達エ
早くと寝てまれ

語学教師としては早速この詩の語釈に取りかかりたいところだが、そんなさかしらなことはやめておこう。詩の意味とすることなら、その必要がないほどはっきりしているから。

ここには、ラジオやテレビ以前の津軽の子供達を含んだ生活の一部が輪郭鮮やかに描写されている。ひよっとしたらこれは今でも変わっていない津軽の生活風

景の「こまな」かも知れない。そしてその詩的な輪郭と雰囲気とは、津軽の言葉が持つ独特の響きに負うところが大きい。この一見乱暴で理不尽とも言えなくもない一種の子守歌は、「さあ、子供たち、早く寝てしまいなさい」という標準語的な響きではなく、あくまでも津軽の土の匂いのする「小供達エ 早くと寝てまれ」でしかあり得ないことを、津軽の風土で育った人ならば良く知っている。しかも視覚的な理解を与える文字を通してではなく、子供に向って発せられた音声の独特の響きであることも良く知っている。その意味では、ここでの音声は意味そのものであり、意味は音声となっているとも言えるのである。

しかし、文化理解のこの稀薄な層まで達すると、「独特の響き」、それは疑いもなくその通りなのだが、とだけ繰り返すのみで私の思いはその先にはなかなか行かない。そして、決して心のどこかで、「いかんぞ、いかんぞ思惟を返さん」という言葉が聞こえてくる。

「吹雪」という詩の雰囲気や津軽の言葉の響きを抜きに考えられないとしたら、津軽の人が関東、関西の作家や漫才師たちの独特の言い回しや響きに接した時はどう考えたらいいか、また同じ日本語内でもそうであるとするれば外国の文学、文化に接した時はどう考えるべきかを問われるからである。異文化理解は結局あ

り得ないとする悲観的宿命論と、だからこそ比較文化学会のような理解を促す場が必要だとする楽観的教育（努力）論の間を揺れ動きながら、そして多くは後者への傾向を強めながら、しかし確実に私の耳と目は次の読み慣れた詩「上京」に移っている。そして幾分かは安心もする。というのは、究極の理解は津軽人でなければ勝手に思い込んでいる世界は、案外他の読者にもその感動が伝わっているのではないかと思うからである。

傍若無人に振舞い強がりや言っていた友人が、新しい局面でふと見せる戸惑い、それはかつて日本が今ほど豊かでなかった頃、特に地方では「上京」と言う現象のなかで多く見られたものであった。出発間際までの明るい笑いは、やがて見慣れた風景を溶かしてしまふ塩辛いものと同じものであることを津軽の言葉で歌っているものであるが、これは四国、九州の方言で歌われていてもやはり同じ胸を締め付けるような感動を与えることのできたのではないかと思うのである。

あッ
汽車発てすまたッ
友達も
愛人の顔コも
見ねぐなたッ
小エ時遊だ
踏切も見ねぐなた
弘前の空も
何も彼も
涙でばやけて
見ねぐなた！

（弘前大学教授）

第十三回大会(六月一日、梅花短期大学)の最後を飾る講演は、同志社大学オーティス・ケアリー教授により流暢な日本語で行われた。本紙では、その時の英文演題「Communication And Discommunication」を和文に変えて、要旨を紹介する。

(文責・引地)

同志社にまいりましたから、来年で四十五年になります。七十歳になったらもういらぬというので、退職することになっております。あまり年をとると、過去のことばかりみえて現在のことがわからなくなります。

日本ではいま、「国際化」ということが盛んに用いられ、英語でinternationalizeなどと訳されたりします。しかし、このinternationalizeという語を私は前に聞いたことがありませんで、ジャパニーズ・イングリッシュではないかと思っていました。どこかでそんなこ

とを書くかいかしたのでしょうか。ある日、はがきが来まして大きな辞典のっているというのです。私もオックスフォードなどの大きな辞典を調べてみたのですが、日本語とちよつとニュアンスがちがっているのです。それでほつとしたことがあります。日本でinternationalizeというのは、日本の事情にあわせてのことなんでしょう。くだらないことを気にしているようでは、言語学者として落第です。

表題の Communication And Discommunication(つまり、うまくいく

コミュニケーションとうまくいかないコミュニケーション)のことは、ずっと前から歴史的に勉強しておりました。私が学んだリベラル・アーツの教育法では、実例を示しながら具体的に深くかわつていくのがいいとされていまして、みなさんにも実例を示しながらお話ししていきたいと思ひます。

●日本語ではあいづち

私の母校でありますアマーフト大学(Amherst college)の同期の者が日本へはじめて来まして、関西まで来たからと、私に電話をよこしました。私も喜んで案内することにしました。まず、ドルを円に変えたいというので、銀行に行きました。カウンターのところに立って待っていますと、中では銀行員が電話をしています。すると、友人が聞くんです「あれは、何だ?」と。「電話しているんだ」と答えると、「あの人はどもりか?」とまた聞くんです。みると、銀行員は「は!

は!は!へ!へ!へ!」といっているだけなんです。それを聞いて友人は、不思議に思ったんですね。日本語はあいづちを打たなければならぬことば、英語はあいづちを打たなくてもいいことばだと私は思っています。英語では、一パラグラフくらいはあいづちなして話してしまいます。

また、アマーフト大学の卒業生が日本で就職したいというので、面接に来ました。人事部の人にあつちこつち案内してもらつて、あと二、三日で帰国するといふときになつたら、待たされたが、契約できないといわれてしまいました。アメリカで気が合ひ、日本でもうまくいっていると思つていたのになぜなんだ?と、私に聞くんです。なんとか説明しようと思つたけれども、私には十分説明できませんでした。

●単数、複数の区別

日本語に単数と複数の区別がないのは困りものです。複数を表現できないわけではないのですけれども、必要なのに表現されないでしまふと困るわけです。

私の祖父が宣教師として来日したのは、明治十一年だったそうです。手にいれたパンフレットをみると、人間の場合、「ら」「たち」「ども」をつければ複数になることが判つてあつたそうです。教会につれていかれて、礼拝の時間になりますと、同志社出身の牧師が長い説教を始めた。その中に「けれども」が何回も出てくるんだそうです。それを聞いて

て祖父は、「けれ」の複数だと思つたそうです。

日本語には、また、比較級がなくて、なんでも最上級でいわなければならぬかのようです。「もっとも、もっとも」になりやすいんですね。未来形もない。どうして「見込み」をもっと使われないかな、と私は思います。日本語では、文の終わりに動詞が来ます。ひとの顔色をみてどつちにも転がりうるわけです。

●総理と木刀

鈴木総理が誕生した内閣交代のテレビ画面が頭から消えませんが。着物の鈴木総理が庭先で木刀を振つて体を慣らしているところが、放映されました。それを見て、「しまった!」と私は思つたんです。こういうイメージは、日本ではいいでしょう。しかし、外国で、たとえば、韓国、台湾、中国、東南アジアではどう受け取られるでしょうか。世界の窓になつて出されることには、問題があります。「また斬りこんでくるのか?」と思うかもしれません。木刀だとわからないでしょう。「今度の日本の総理大臣はこれくるのだろうか?」と考えられても仕方ないことです。

●「多大な迷惑を……」

気になる言葉遣いがあります。ニクソン大統領が、アメリカは朝鮮戦争に時間がかかっている。その打開策として中国と関係をつたふ決心をしまして、中国を訪問しました。ベキングで閱兵をし、毛沢東と会見しました。中国側の晩餐会が人民大会堂で催されますと、ニクソン大統領

コミュニケーション コミュニケーション

ティス・ケアリー教授

日本は力まます



大会講演・同志社大 オ

周囲に配慮を

ました。家族が手をふります。そこでびっくりしたのは、進んで行く船の後部の旭日旗です。これは、白衛隊の子童でつくった船なんだな、と思いました。しかし、同時に、平和の仕事をしにくのに、なぜ旭日旗？とも思ったのです。一番簡単で、しかも、いいイメージをもつ白地に赤の旗でいいはずなのに。湾岸掃除にくのに、なぜ旭日旗を掲げなければならぬのでしょうか？

●「ニイッポン」

はカリフォルニア・ワインで乾杯という手順でした。それをみまして、日本の田中総理は、アメリカがやったのだから日本もやっばいだろうというので、中国へ行きまして、閩兵、晩宴会とアメリカ版と同じ待遇を受けました。もって行った酒は新潟産のいい酒。ところが演説はというと、十二・三分でしたが「多大な迷惑をおかけしまして」ですませてしまったのです。田中総理は、三十年前、兵卒として中国へ行ってたのです。ひとりの人間としての伝達がなせできなかったのでしょうか。「私も、かつては、一兵卒として……」と。昭和天皇でさえ「遺憾の意」を述べられ、平成天皇も「痛惜の念を禁じえません」と述べておられるのです。十分であるかどうかは別として。

●平和の仕事と旭日旗

日本は戦後、南極探検に力を入れております。南極船は、しばらく、「ふじ」でしたが、次に「しらせ」にかわりました。テレビの画面に、横浜港を出港するクリーム色のきれいな「しらせ」が写り

ました。家族が手をふります。そこでびっくりしたのは、進んで行く船の後部の旭日旗です。これは、白衛隊の子童でつくった船なんだな、と思いました。しかし、同時に、平和の仕事をしにくのに、なぜ旭日旗？とも思ったのです。一番簡単で、しかも、いいイメージをもつ白地に赤の旗でいいはずなのに。湾岸掃除にくのに、なぜ旭日旗を掲げなければならぬのでしょうか？

ました。一つの国が一つの目的に向かうとき、ことが固くなるそうです。そういう論文を読んだことがあります。私が好きなのは、「ニイッポン」ではありません。「にはん」です。

第十三回大会総会報告

I. 報告

1. 庶務報告

A. 「比較文化研究」発行について

No.15—No.18について

B. 学術研究団体の登録について

日本比較文化学会は、一九九〇年(平成二年)八月二十一日にて、第十五期登録学術研究団体として日本学術会議会員推薦管理会より認定された。

会員推薦管理会が登録した学術研究団体は、自動的に「広報活動に協力してもらうための団体」(広報協力学術団体)となり、日本学術会議の活動の周知を図るとともに、各分野の学術研究団体と緊密な連絡・協力関係を維持・強化するために、協力することになる。

C. 支部連絡先の確認について

各支部において、会員の移動、住所変更等が生じた場合には本部までご連絡をお願いします。

D. 第十四回大会について

日時：一九九二年六月十三日(日)

開催校：八戸工業大学 新教養棟

(青森県八戸市 〇一七八—二五—三二—一 代表)

シンポジウム テーマ：「文化伝達におけるコンピュータの役割」

1、会計報告

2、詳細は総会にて配付した資料通り

II. 議題

1、人事について

役員改選の時期に伴い、一部次の通り入れ替りました。

名譽会長 椎野正之(元大正大学)

会長 芳賀 馨(福島県立医大)

副会長 太田敬雄(新島女子短大)

監事 芥田好雄(弘前大学)

2、九州支部設立について

昨年十月、九州支部が発足されましたが、総会にて正式に承認されました。

所在地 八五四 長崎県諫早市栄田町 〇五七

長崎ウエスレヤン短期大学 学南川研究室内

TEL 〇九五七—二六一—二二三四 FAX 〇九五七—二六一—〇六三三

支部選出理事 南川啓一(長崎ウエスレヤン短大教授)

3、会則改定について

(1) 学会会則七条(会費)の一部が改定され、「学生会員年額五〇〇円とし」という文言が削除されました。

学生会員という呼称は今後なくなるとともに会費も一般会員としてあつかわれますので、年額三、〇〇〇円になります。なお、一般会員および賛助会員の会費はこれまで通りです。

(2) 第四条(組織)は、「事務局次長一名」を追加します。

4、第十五回大会について

一九九三年六月予定の第十五回大会

は九州地区が開催地に選ばれました。
(本部事務局長・佐藤幸正)

シンポジウム講師募集

西村 清巳

一九九二年の比較文化学会シンポジウムのタイトル「文化伝達におけるコンピュータの役割」は、開催地・青森県八戸市に良く似合います。同市は大会会場の八戸工業大学のほか国立の八戸工業高等専門学校もある工業都市です。
工業以外にも、教育、医療、スポーツと、文化のあらゆる面で、コンピュータの存在は無視出来ません。各種専門分野におけるコンピュータのソフト面ハード面の問題点・実情・夢などを語り合いたいものです。

発表時間は各講師二十分、その後フロアと講師の活発なディスカッションを期待しております。
従来通り、講師は各支部一名です。支部長を通じてお申込み下さい。発表レジュームは来年の三月末までに提出戴く予定です。
(弘前大学医療技術短大教授
・シンポジウム司会者)

会員新刊紹介

石黒昭博・島中康男・山内信幸共著

A Shorter Course in English Qualifications (『5分間英語検定』) 南志堂

本書は、現在わが国で行なわれている各種英語検定試験に必出の基礎的問題の要点を選び出し、類似の練習問題を解いてゆくことによって、試験にパスする実力をつけてもらう意図で編まれたもの。問題は発音、聴取、文法、作文、読解と多方面にわたっている。

支部活動報告

北東北支部 (平成二年)

六・十二 関係代名詞の省略について 西村 清巳

七・十 Listeningの方法について 林 洋子

九・十八 Fashion英語の読み方について 西村 清巳

一〇・二二 時事英語の読み方について 小林 俊也

十一・十四 イギリスの観光英語について 佐藤 憲和

南東北支部 (一九九一年)

三・二二 トリカブトの光と陰 高野 静子

七・十九 組織における上下関係について 渡辺 勇

十・十八 言語と社会 片岡智恵美

十一・十五 店頭・店内広告のレタリング 川村 洋一

十二・二九 邦楽と洋楽の比較 ケネス・L・リチャード

十三・二九 邦楽と洋楽の比較 ケネス・L・リチャード

十四・二六 実演：箏曲「六段」など この二年を振り返っている話しましょう。

司会 楠 純

関西支部 (一九九〇〜九一年)

九・二二 On Middle and Ergatives in English 川本 裕木

Shakespeare's *Macbeth* 三・二六

の日本的翻案と演出効果—
魔女・物の怪・まれびと
平塚真美子

ホヘミアンの系譜 吉川 禮三

James Thomson: *The Seasons* における Summer の考察 山本美津子

Hemingway の自己像の反映と *Margot* Maomber 杉田トモ子

Generative Stylistics Revisited 石黒 昭博

"Void" と注した *Ulysses* を読む 田村 章

E. Hemingway の *The Sun Also Rises* の風景描写 河井 恵子

翻訳の色は匂へ *Part III* 『雪国』の英訳 釜池 進

A *Connecticut Yankee* のマーク・トゥエインの『革新主義』 森下 和彦

結合価文法の新展開—その応用をめぐって— 北林 利治

近江の文化を考える 井戸 庄三

Control and Binding 川本 裕木

The Waste Land に流れる音楽のモチーフについて 佐野 仁志

妖怪・悪魔の姿 中世キリスト教的伝統の中で— 斎藤 勇

Paul's thread Wilson におけ

る the false Tom の社会的な死の意味について 筑後 勝彦

Blake's 言書における vision の発展について 為後 孝子

英語の基礎学力とコミュニケーション能力—指導の方向性をさぐる— 白井 雅裕

結合価文法とレキシコグラフィ— 橋本 兼一

Some Remarks on Conceptual Semantics 橋本 兼一

A Comparative Study of *The Visible and Invisible Man* 橋本 兼一

Grammar and Pragmatics のはざま—語法をめぐって— 石黒 昭博

《本部事務局だより》

プログラム発送を早めますので、発表投稿のメ切りを次のように変更します。

1 研究発表レジューム

(1) 十二月末日必着で事務局まで。

(2) 横書四〇〇字詰原稿用紙・B五版(西洋紙半分大)二枚。

レジュームはそのままコピー、製本致しますので、できればワープロ等でタイプした原稿ですと、きれいです。

2 シンポジウム レジューム

(1) 及び(2)とも研究発表の場合と同じ。

その他、「会報」記事、研究論文集「比較文化研究」は従来通り三月末日のメ切りになります。ご応募下さい。
(本部事務局長・佐藤幸正)